

かわねほんちよう

議会だより

第72号

令和5年11月発行

発行/川根本町議会
編集/議会広報委員会

3校が一つになって友達いっぱい!!

三ツ星小学校運動会 9月30日



新しい議会体制が決まりました…………… 2
9月議会で決まったこと…………… 3
令和4年度一般会計・特別会計決算を認定…………… 4～5
令和4年度 決算特別委員会審査報告…………… 6～7

決算特別委員会 現地調査報告…………… 8
第二常任委員会報告・討論…………… 9
一般質問 6名…………… 10～15
各委員会報告・議会のうごき・12月議会予定…………… 16



川根本町議会

新しい町議会の構成が決まりました

令和5年第3回川根本町議会臨時議会（10月25日）が開催され、
正副議長、各委員会の構成が決まりました。

議長あいさつ



議長
石山 貴美夫

この度の臨時議会において、議長に選任されました石山貴美夫です。その責任の重さを痛感いたしております。町民生活の色々な問題につき話し合い、良い政策は力強く後押しをし、町民の意思と違う点は正していく事が議会の役割です。

自然災害、経済情勢など厳しい状況の中ですが、町民の声である町議会と執行機関は、独立対等の立場で、尊重し協力し町民の生活向上、発展のため厳しい状況を乗り越え前進すべきと考えます。

『安心して年を重ねていける町に…』という私の立候補時の信念は変わりません。何とぞより一層のご指導をお願い申し上げます。

副議長あいさつ



副議長
中澤 荘也

私はこの度、先の臨時会において、副議長に選任されました中澤荘也です。

議長の補佐役を担うとともに、議会の役割、議員としての使命を再確認し、皆様方の思いや声を行政に届け、それを施策に反映させることのできるよう、最善の努力をして参る所存であります。

また、少子高齢化の中で生ずる様々な課題にも議会として議論を尽くし、議員としても積極的に取り組んで参りますので、今後とも、町民の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

第1常任委員会



澤西 省司

中野 暉

石山 貴美夫

中田 隆幸

委員長
藤田 至

副委員長
佐々木直也

第2常任委員会



大竹 勝子

中澤 荘也

中野 浩和

野口 直次

委員長
中原 緑

副委員長
杉山 広充

議会運営委員会

委員長／中野 暉 副委員長／中原 緑
委員／佐々木直也 藤田 至
杉山 広充

広報委員会

委員長／中澤 荘也 副委員長／大竹 勝子
委員／佐々木直也 中原 緑
杉山 広充

一部事務組合議会議員

駿遠学園管理組合議会議員
佐々木直也

9月議会 で決まったこと

(令和4年度決算認定議案を除く)

9月1日定例会初日、諮問1件と議案5件が上程され、2日目15日に可決しました。また、15日に上程された追加議案1件が、第二常任委員会に付託され、27日可決しました。

諮問

○人権擁護委員候補者の推薦について

中村 稔 氏(崎平)任期 令和5年12月1日から3年間

条例関係

○川根本町営バス条例の一部を改正する条例について

10月1日より大井川鐵道代行バスが廃止になり、自主運行町営バスに変わる。

千頭から家山まで幹線道路を走り、乗り継ぎなしで行けるようになる。(笹間渡・身成には止ま



10月1日から運行した町営バス

らない)せせらぎ号・やませみ号は廃止となる。デマンドタクシーは3台体制になる。

○川根本町立義務教育学校設置条例の制定について

【川根本町立三ツ星学園】

川根本町上長尾1000番地

※三ツ星小学校と中川根中学校を統合する。

【川根本町立光の森学園】

川根本町千頭1236番地の6

※本川根小学校と本川根中学校を統合する。

以上、名称・所在地を賛成多数で可決した。この条例は、令和6年4月1日から施行する。(関連記事9ページ)

補正予算

○令和5年度一般会計

2億8300万円を追加し76億8300万円とする。

林道水川線8千万円、

林道西又線9千万円など

災害復旧費1億8940万円、光通信関連設備部品購入385万1千円、

路線バス対策費1818万円、一般廃棄物処理委託料704万4千円、もりのくに循環ポンプ改修工事109万3千円、災害土砂運搬処分業務委託1400万円、高郷地区さく井工事1023万円、人事異動等による補正他を賛成多数で可決した。



災害復旧の工事費が決まった林道西又線

○いやしの里診療所事業特別会計

86万2千円追加して5166万2千円とする。

遠隔用電子モバイル端末機器購入80万8千円・保守点検2万9千円など。全員賛成で可決した。

○簡易水道事業会計

(今年度から企業会計に移行)

令和4年度川根本町水道事業特別会計打ち切り決算に伴い、未収金2325万2千円を2499万円8千円に、未払金1239万2千円を1275万3千円に確定したことから、貸借対照表を改訂した。

○介護保険事業特別会計

1492万4千円を追加し13億2992万4千円とする。

介護保険事業国県支出金等返還など。全員賛成で、可決した。

人事異動による人件費の補正として185万5千円を追加し2億4816万1千円とした。財源は一般会計繰入と簡易水道事業基金繰入金で充当。全員賛成で可決した。

— 令和4年度 —

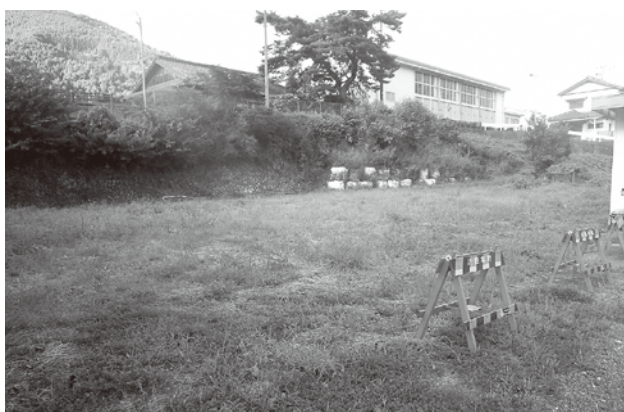
一般会計・特別会計決算を認定

9月議会定例会では、令和4年度の一般会計及び6つの特別会計の決算認定について決算特別委員会に付託し、9月27日の本会議において、委員長報告の後に決算認定7件の起立採決を行い認定いたしました。

会計別の決算

(単位：千円)

		収 入	支 出	差引残額	支出の前年度との比較
一般会計		6,726,463	5,782,999	943,464	△ 10,152
特別 会 計	国民健康保険	835,153	817,915	17,238	△ 44,532
	後期高齢者医療	128,062	127,786	276	890
	介護保険	1,344,112	1,331,329	12,783	78,593
	簡易水道	208,589	187,904	20,685	△ 78,550
	訪問看護	13,082	12,947	135	△ 2,552
	いやしの里診療所	50,990	50,163	827	△ 2,963
合 計		9,306,451	8,311,043	995,408	



解体された小沢医院 東側診療所跡地（高郷）



新しく始まった高齢者の保健事業と介護予防の
一体的実施事業 ノルディックウォーク

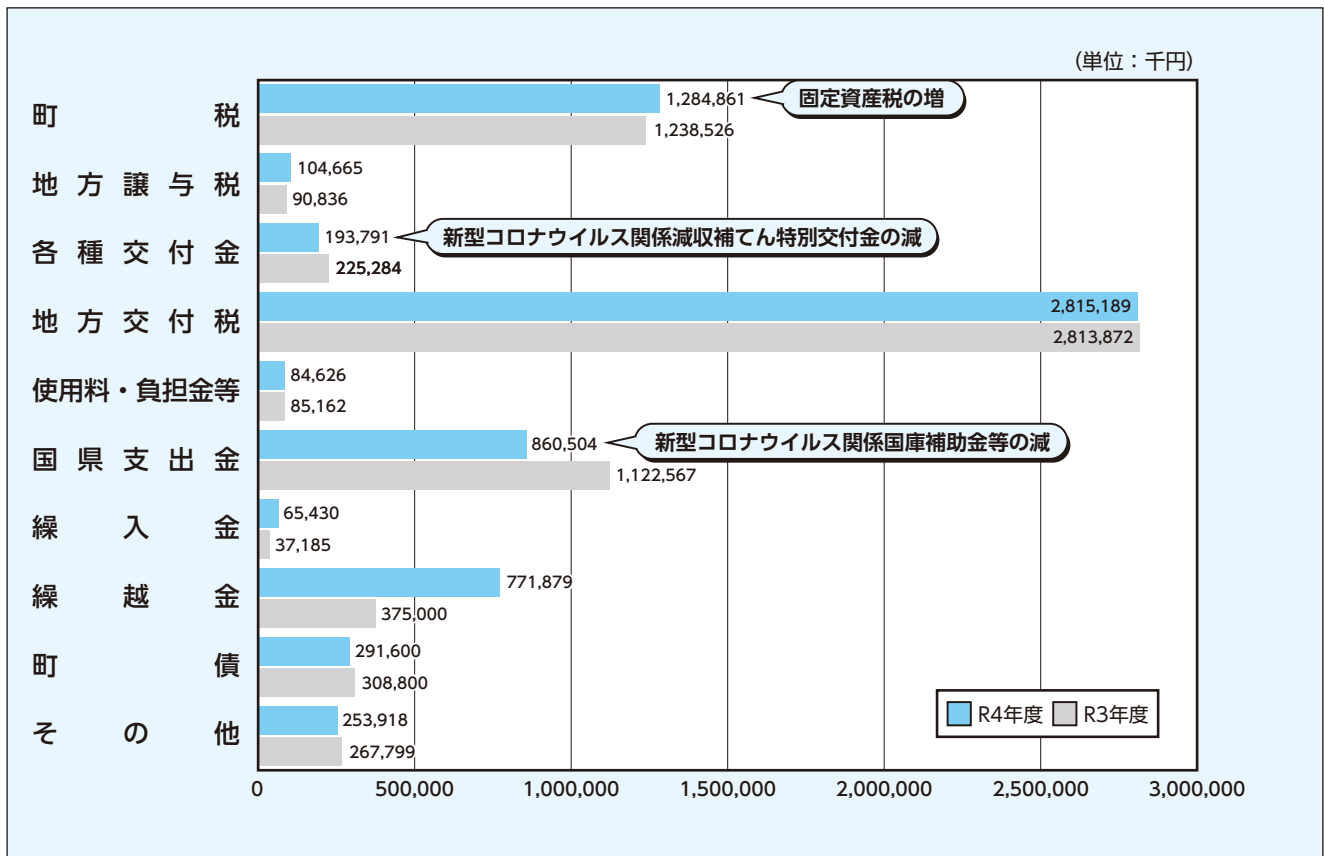


デマンドタクシーの運行

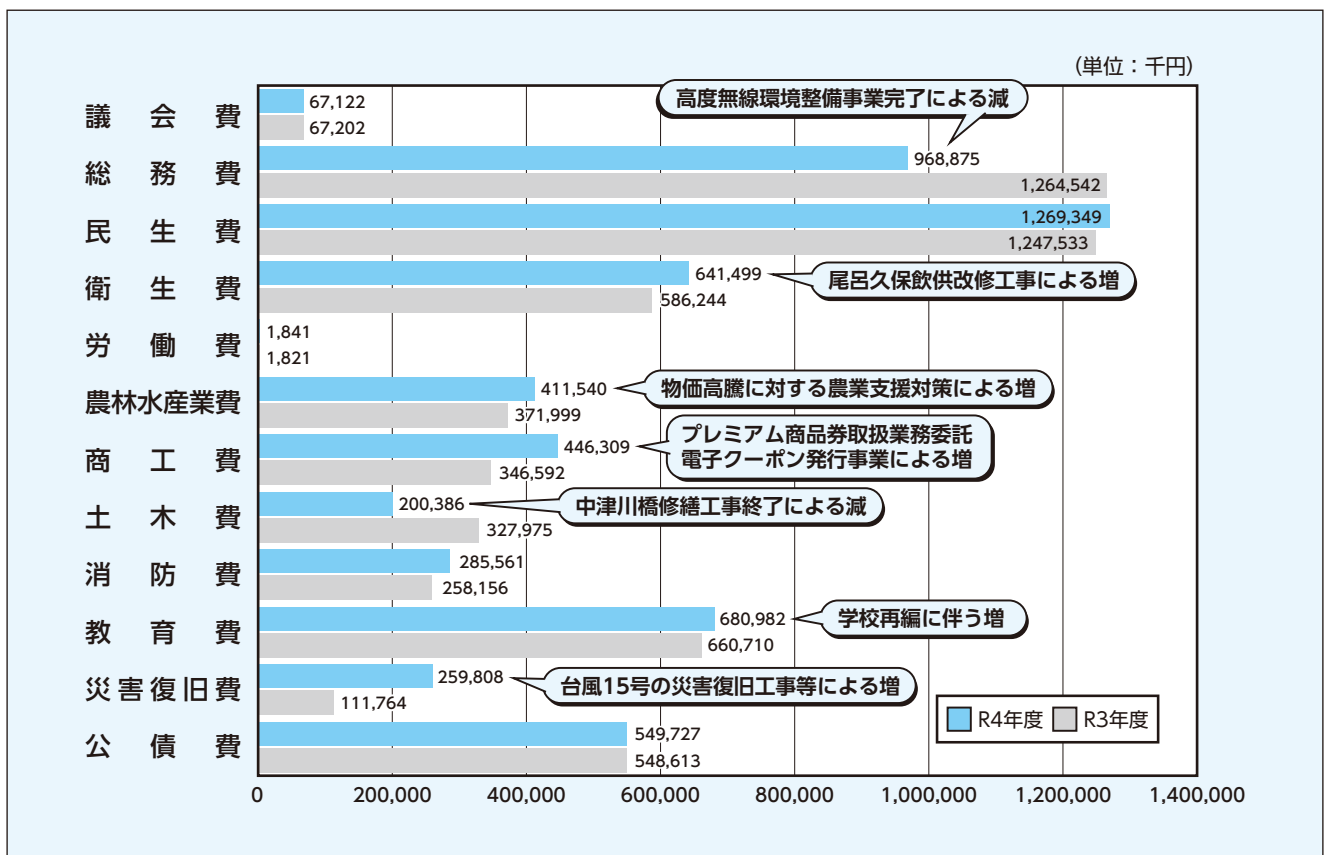


物価高騰対策 燃費補助クーポン

歳入費目別の前年度比較



歳出目的別の前年度比較



令和4年度 一般会計・特別会計決算審査

決算特別委員会審査の内容をご報告いたします

(令和5年9月1・4・5・7・8日審査、9月19日現地調査、採決)

令和5年9月1日定例会において、決算特別委員会に令和4年度決算審査が付託され、委員長に石山議員、副委員長に澤西議員を選出後、5日間にわたり決算審査を実施しました。質疑応答の要旨は次のとおりです。

一般会計

税務住民課

問 マイナンバーカードでの住民票等交付料は、全て統一すべきでは。

答 条例改正が必要、検討する。

問 固定資産税が伸びた要因は。

答 コロナ減税措置の反動や中電送電線の更新等による。

問 国保保険税の県統一化の進捗状況は。

答 令和12年度目途に進めていく計画。

会計課

問 赤石太鼓基金繰入の理由は。

答 同保存会40周年記念事業の財源とした。

くらし環境課

問 町営バス利用者減少の理由は。

答 民間事業者の送迎サービス充実、バスでの

外出減少と考察する。

問 デマンドタクシーの委託先変更はあるか。

答 検討課題である。

問 寸又峡路線バス利用者数減少要因は。

答 大井川鐵道不通と、夢の吊橋通行止めが最大要因と考える。

問 し尿処理の現施設使用期間延長は、地区の了承は得たか。

答 了承を得ている。



し尿処理場（三津間地区）

デジタル推進課

問 かねFoneの機器変更する場合、使用料は町負担か。

答 利用者負担が大原則だが、慎重に進める。

デジタル化による町民の利益を知らせる必要があるのではないか。

問 デジタル化のためのデジタル化で、取りまとめて知らせる。

答 町民のためのデジタル化で、取りまとめて知らせる。

建設課

問 住宅改修補助事業の抽選漏れした者は、次年度優先されるか。

答 優先権は無い。

問 元青部小周辺土地整備事業関連予算の全額繰越理由は。

答 災害土砂置き場使用で、測量が実施不可能だったという事である。

問 道路改修等の地区要望の実施状況は。

答 要望の7割程度、理由説明はしていきたい。

健康福祉課

問 生きがいの湯は、観光客の利用は可能か。

答 利用可能である。

問 中川根児童クラブの場所変更はあるか。

答 学校内で開所できる

か検討中。

問 高齢者の聴覚検査計画はあるか。

答 考えていない。



創造と生きがいの湯（小長井地区）

議会事務局

問 補助金交付団体等は監査対象か。

答 補助金交付団体、指定管理者の監査も実施している。

観光交流課

問 エコツーリズム推進は観光協会と連携できないか。

答 エコティと観光協会の連携はしている。

問 観光協会の必要性をどう考えるか。

答 行政単独では業務限度もある。

問 千頭温泉は、余剰分を活用すべきでは。

答 検討する。

教育総務課

問 川根高校寄宿舎財源の交付金はいつまでか。

答 令和7年度で、寮費改定等に対応したい。

問 南麓寮は後援会から町直営となるのか。

答 そのとおり。

問 町外高校通学生への支援検討状況は。

答 新年度予算までに結果を出したい。

社会教育課

問 社会教育委員会図書館必要性の議論は無いのか。

答 町既存施設運営に絞って議論している。

問 文化会館芸術鑑賞で人気のジャンルは。

答 歌謡、演劇、漫才映

画などが人気。

産業振興課

問 茶茗館は道の駅である。食事提供等顧客満足度向上策に努められたい。

答 本館での対応も手法を探っていく。

問 町有林は、森林環境譲与税の充当は可能か。

答 公有林への充当はできない。

問 企業誘致には、雇用人材確保を踏まえた対応を。

答 承知した。

経営戦略課

問 移住相談は、エコティかわね、かわね来風2団体だが。

答 委託内容は同じで、エリアを分けている。

問 縁結び事業内容変更点は。

答 男女とも町民限定をやめた。

高齢者福祉課

問 外出支援サービスは、ニーズに対応できているか。

答 できていると思う。

問 在宅高齢者等配食サービスは、提供店による中身の違いが指摘されているが。

答 商工会を通じ提供店に指導している。

総務課

問 行革関連で、採算性の低施設は廃止方向で検討する必要がある。

答 行革委員会内容は町長に報告済み。音戯の郷



議論の対象となっている音戯の郷

特別会計

特別会計の、国民健康保険事業・後期高齢者医療事業・介護保険事業・簡易水道事業・訪問看護事業・いやしの里診療所事業についても、多くの質疑応答がありました。紙面の関係で省略いたします。

委員会採決時の討論

採決時の討論は、大略次の通りありました。

《一般会計》

反対 多額の繰越金を町民支援事業として取り組まれていないので反対。

賛成 コロナで通常事業が縮小・中止となつての繰越で今後は実施されるので賛成。

《介護保険特別会計》

反対 歳入歳出差し引き1278万円残がある。基金積み立てが2850万円あり、保険料が高かったと考え反対。

賛成 実績から支出が減り繰越が出たのであり、基金は緊急時必要である。保険料算定が過大とは考えられないので、賛成。

《簡易水道特別会計》

反対 水道料値上げが暮らしへの打撃となった。軽減策を取るべきと考え反対。

賛成 歳入歳出決算は正しく処理されており賛成。



委託により自主事業等が行われている文化会館



決算特別委員会現地調査(令和5年9月19日)

現地調査とは

予算が、議決した趣旨と目的に従って適正に、そして効率的に執行されたかどうか、それによってどのように行政効果が発揮されたかを確認するために、決算特別委員会が抜粋した場所を現地にて確認することです。現地では役場担当職員から詳細説明を受け、質疑応答をして、予算が適正に執行されたかを確認します。

北部残土処分場整備

事業費

1586万円

事業目的

町の発注する慢性的な残土処分場不足を解消するため。



残土処分場西側の様子



残土処分場東側から

レイクコテージ奥大井

事業費

①照明改修約104万円

②浄化槽汲み取り用備品約35万円

事業目的

①節電に寄与する。
②汲み取り作業の効率化。



詳細説明を受ける



奥大井レイクコテージ

桑の実町有地土留工事

総事業費

771万9千円

事業目的

土留工(石積・切土等)を施工することで、崩壊の恐れを排除し、近隣住民の安全を確保する。



今後の有効な活用を考える



法面の状況確認

学校給食共同調理場

事業費

①調理室床改修工事150万7千円

②オートフライヤー購入605万円

事業目的

①大型調理機器更新に伴う床面全面改修工事
②経年劣化による更新



現地へ向かう議員



オートフライヤー



給食施設にて

川根高校3寮Wi-Fi整備

総事業費

314万6千円

事業目的

川根高校の3つの寮(奥流、南麓寮、よすが苑)のアクセスポイント及びHUBの設置により安定的な通信を確保する。



南麓寮にて説明を受ける

まとめ

決算審査は、事業ごとに詳細に説明を受け審査を行いました。この間現地調査すべき個所の選定をし、実施後、採決を行いました。令和4年度一般会計、6つの特別会計は、全員賛成で認定されました。本委員会での審査内容が、次年度予算や町の施策に反映されることを期待いたします。

委員長 石山貴美夫

第二常任委員会審査報告

令和5年9月22日に開催された第二常任委員会では、委員会に付託された議案第49号「川根本町立義務教育学校設置条例の制定について」の審議がされました。質疑応答の後、討論なしで採決に入り、全員賛成で可決すべきものと決しました。

川根本町立義務教育学校設置条例とは

令和6年4月から開校が予定されている義務教育学校の名称及び位置を定める条例。

委員会での質疑(抜粋)

問 光の森学園について、決定までの経過は。

答 応募総数は43件あった。これを校名検討合同会議にて15に絞り、その後3件を候補にして最終決定に至った。

問 三ツ星学園の名称について児童生徒の理解が深まらなかった要因は。

答 対面による丁寧な説明や対話が不足していた。

採決後、委員長が、「学校関係はデリケートな課題であることを再認識し、さらに丁寧な進め方をお願いする」という意見を添えて、委員会は閉会した。

(委員長 石山貴美夫)



三ツ星学園



光の森学園

賛否が分かれた議案

議案番号	件名	中原 緑	中田 隆幸	中澤 莊也	中野 暉	野口 直次	大竹 勝子	石山 貴美夫	澤西 省司	藤田 至	中野 浩和	佐々木直也
議案第45号	令和5年度川根本町一般会計補正予算(第4号)	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
認定第1号	令和4年度川根本町一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
認定第4号	令和4年度川根本町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
認定第5号	令和4年度川根本町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
議案第49号	川根本町立義務教育学校設置条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○

※杉山広充議長は、採決に加わりません。

討 論(抜粋)

【認定第1号】

反対 繰越金が多すぎる。その分を住民サービスに使うべきであるため反対。

賛成 単年度実質収支は黒字だが、当町のよるな財政力の低い自治体は、外的要因による財政状況の変化に備えるべきで、適正な決算であるとして賛成。

【認定第5号】

反対 前年度水道料金が上げられたままで負担増となっている。特に水の利用が少なく見込まれる世帯については負担軽減策を取るべきとして反対。

賛成 人口減少による水道料収入の影響、災害等に備えての各施設の計画的な維持管理のために適正な水道料金であるとして賛成。

【認定第4号】

反対 予想より利用が少なく返還金が多い。保険料を集めすぎて使わなかったことになり、住民の負担が多いため反対。

賛成 介護保険料は前年比98・2%であり、繰越金が526%だったため黒字。積立金は当初の予定どおり執行されており適正であるとして賛成。

【議案第49号】

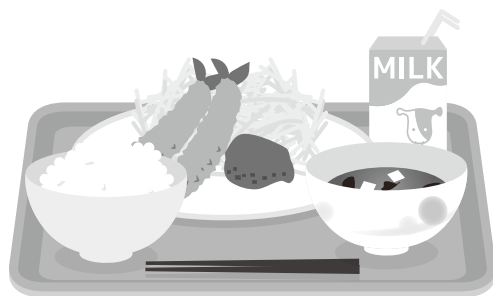
反対 校名に反対ではなく、教育委員会の保護者PTAに対する対応の仕方に問題があり、今後の教育行政に生かしてほしいため反対。

賛成 指摘を受けた後の対応により保護者・児童生徒の理解が得られたこと、今後の情報周知方法の改善が見られるため賛成。



統合した三ツ星小学校の給食時間

ふじ いたる
藤田 至
議員



他市町村よりも先行した無償化を！

質問 学校給食費の無償化について

答え 財源をどこに使うかも含め、前向きに検討していく

質問：今年春に発表された、政府の「次元の異なる少子化対策」の試案でも、学校給食費の無償化に向けて、給食実施率や保護者負担軽減策等の実態を把握しつつ、課題の整理を行うと記されている。また、県では知事が一月の記者会見で公立小・中学校の給食費の助成拡大を検討する考えを示した。静岡県内の35市町のうち、当初の時点では小山市、御前崎市、西伊豆町が完全無償化を打ち出した。河津町は、本年度当初には、小・中学校の給食費を4〜5百円値上げを予定していたが一転、物価高騰による保護者の負担軽減のため、国の地方創生臨時交付金を使用して無償化を決めたと同った。当町でも平成29年度をピークに生徒

子どもが減少しており、令和4年度、中川根中学校区210人、本川根中学校区62名の子どもたちが学校給食を食しています。予算的にも1900万円あればまかないきれ。小学生で年額5万1000円、中学生で年額6万7200円で、保護者負担は大変な額である。今後、10人から30人減っていく現状を直視し、ぜひとも学校給食費の無償化を考えていただきたいが、町長の考えを伺う。

町長：現在、給食費の負担の大きい、所得が低い家庭に対して、就学支援制度による学校給食費の助成などを行っている。学校給食費の無償化について取り組む場合、本町のように、一般財政が限られた自治体では様々な事業に優先順位をつけ、事業を実施する必要がある。子育てしやすい環境づくりが大切という考えがある。限りある財源をどこに使うかも含め、前向きに検討していく。

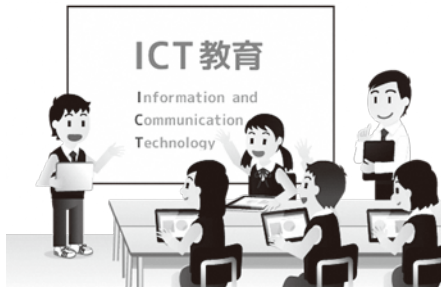
質問：定住移住政策を実施遂行していく上で大事な事は、どこの市町よりも先行して新しいものが必要がある。川根本町のような山の多い自然豊かな町というのは、往々にして田舎で辺鄙な場所である。魅力は大井川鐵道、SLやトーマス号といった人気者があつたからで、大井川鐵道が運休している今、魅力は半減、定住移住に力を入れるなら、他より先行してやらないか伺う。

町長：国の国策を頭に入れながらこれから努めていく。

※掲載記事は発言議員の寄稿によるものです



さ さ き なお や
佐々木 直也
議員



ICTの活用で「町から世界へ、世界から町へ」



当町の素晴らしい教育環境の積極的な発信を期待!

質問 教育環境の一層の充実と、情報発信に期待!

答え 社会全体で支援していくように努めていく。

質問：「定住移住促進」のために今後力を入れていきたいところは。子育て環境の一層の充実の考えは。

町長：住まいと教育を含む、子育て環境の整備である。現在実施中の事業の継続をしながら、当町ならではの教育を推進し、安心して子育てができる環境整備に努める。

質問：町長から見る当町の教育環境の魅力は。

町長：ICTの先進性である。今後より一層充実させていきたい。

質問：ICT導入から数年経ったが、他市町と比べて優れている部分は。

教育長：情報リテラシーが身につけていて、正しく自分の学びに資する使い方ができている。

質問：学習ソフトの見直し等は考えているか。

教育長：学校現場からの情報、先進地への視察で目にしたことなどを踏まえて検討していく。

質問：教育現場で今後力を入れていきたいことは。

教育長：一人一人の子どもたちが主体的に学んでいけるような力強い力をつけていきたい。

質問：教育環境の一層の充実のための行政としての考えは。

町長：来年度に向けて、先生方が充実してお仕事していただけるように整えたい。

質問：教育大綱、学校教育ビジョンの見直しの内容は。

教育長：町総合計画に則して考えていきたい。

質問：健康福祉課を総合教育会議に入れる考えは。

町長：大事なところだと思ふ。検討していく。

質問：文科省の検討資料等を読むと当町の教育が目指しているものと近いと感じる。「全国から選ばれる学校」になるためには、文科省の考えを先読み、先回りし、情報発信、アピールすることが有効かと思うがいかがか。

教育長：当町の現場の挑戦や取組を、系統立ててまとめて、発信に力を入れていきたい。

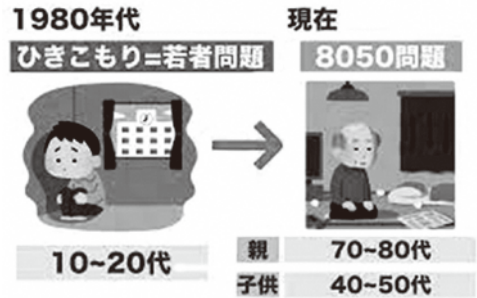
質問：発信を計画的に行えば、教育環境の発展、子どもたちの町への愛着、定住移住にも繋がると思ふ。町長にも他市町村や県、国で、当町の教育についてお話しただけならばと思うが、いかがか。

町長：社会全体で支援していくという意味でも、注目していただく意味でも、これから努めていきたい。



これも食育“新一年生 配膳も自分達の手で”（三ツ星小）

なか ざわ そう や
中澤 莊也
議員



8050問題

質問 学校給食における食品ロスの軽減を図るには

答え 創意工夫と栄養教諭による食育指導の充実

質問：学校近隣市町の給食における食品ロス対策は。

質問：学校近隣市町の給食において、食育という面で検討していきたい。

町長：栄養教諭の指導の下、残量の多い献立を把握し、カット方法の変更などに取組み、対応している。

町長：近隣市町の状況について情報を得ながら、学校給食運営委員会等において検討を進めていく。

質問：残渣等を堆肥化する考えはないか。

質問：残渣等については、様々な取組みの中で、前向きに検討していく。

教育総務課長：学校づく

質問 引きこもり世帯の抱える複合課題への対応は

答え 地域包括センターを相談窓口支援を行う

質問：8050問題への対応は。

民生委員等との連携を強化し、支援に繋がっていくことが最適と考えている。

町長：町内の引きこもり世帯数は、令和元年度の県の調査で26世帯である。8050問題等に該当するケースはさらに少ないことが予想されることから、従来通り地域包括センターが相談窓口となり、

高年齢福祉課長：現在のところ、この問題に関して地域に赴いての相談会の開催は考えていない。

高年齢福祉課長：ハローワークに繋げ、就労支援

質問：相談により支援に繋がったケースはあるか。

質問：燃油助成券交付事業を令和5年度以降、一般財源を原資として行う考えはないか。

町長：国の燃料価格激変緩和補助金の状況や、町の事業実施状況、財政状況を踏まえ、より効果的な事業を実施するよう検討していきたい。



おお たけ かつ こ
大竹 勝子
議員



地元野菜を食べて元気に！



駅に花を植え、いつ来てもOK

質問 学校給食への地元野菜活用、拡充について

答え 安定供給、安全性が確保できれば導入可能

質問：町内産食材の活用状況は

教育長：町内産食材は安定供給できる椎茸、大豆、芋がらを使用している。

質問：食育については

教育長：栄養士とオンラインでつないで学習する。農業についても総合的学習の時間に農家の方と交流し栽培活動など体験し、

教えていただきながら進めている。

質問：給食費の保護者負担の軽減を図る考えは

教育長：就学援助受給者は8名である。事前に保護者に周知した上で、対象者がいる場合には個別に対応している。

質問：遊休農地を活用し保存がきく有機野菜の栽培に意欲的なグループの育成を図る考えは

町長：やる気をもって農業に取り組んでいる若い方達には、遊休地、耕作放棄地を貸し出し支援していく。

質問：安心・安全な地元野菜を使うことは

町長：地元食材の活用がベストだと思う。

質問 大井川鐵道を堆積土砂搬出に活用を

答え 関係機関と議論して無い為、回答できない

質問：大鐵が1年以上運休しているが、本町の影響は

町長：観光業への影響が大きい。イベントを開催し、観光協会等と連携し誘客事業を展開している。

質問：あり方検討会は2ヶ月に1回開くとしている。

3月の第1回以降開かれないのはどうしてか。

町長：鉄道運輸機構の鉄道災害調査隊の調査を経て、災害復旧費の精査が行われた後、今後必要な費用が示され、費用の負担、将来の運営に関する役割分担等に関する課題について議論される。

質問：大井川の河川敷やダム堆積土砂を、大鐵を活用して搬出すれば、

旅客収入と土砂運搬による運賃収入が見込まれ経営の安定と持続化が図られるのではないかと。またCO₂の排出を削減し、地球温暖化防止にも貢献できるのではないかと。

町長：関係機関と議論が

されていないので、その効果や実現性に対し、回答できる状況ではない。



事業承継した堀電器（千頭）



iPadでお買い物も…



なか はら
中原
みどり
緑
議員

質問

持続可能な地域を目指す町としての取組は何か

答え

SDGs、脱炭素社会、DXを意識した事業展開

質問：持続可能な地域を

目指すことは、少子高齢

化による労働人口の減少、

経済の衰退、商店の空洞

化、自然環境の悪化など

の問題解決へとつながる。

町長はどのように考えて

いるか伺う。

町長：施策分野ごとにS

DGsの17の目標を位置

付け「SDGs」「脱炭素

社会」「DX」を町職員へ

周知し、3要素を意識し

た事業展開により、持続

可能な町、千年先も続く

まちづくりに取り組む。

質問：町が抱える困難に

対処するため、一つの切

り口として「SDGs」

を導入してはどうか。

経営戦略課長：総合計画

において検証委員会で見

てを頂き、各課に伝え、

改善していく仕組みがあ

る。それが十分機能すべ

ばより良いケースとなる。

そこを目指して委員会を

開催している。

質問：町の主産業は何か。

経営戦略課長：「川根

茶」「温泉」「自然」で、

今年度は観光業と農林業

の活性化に重点を置いた。

質問：選択理由は何か。

経営戦略課長：町の強み

であり、地域資源の価値

を活かしていきたい。特

に昨年の台風被害で観光

客が減少し、主要産業が

低迷しているため重点施

策とした。

質問：主要産業であるの

に就業者が少ない原因は。

経営戦略課長：観光業は

客の減少による売上げの

落ち込み、農林業は茶価の

低迷で若者が引き継がな

い。ともに後継者問題と、

事業承継が要因。

質問：商工会によれば後

継者不在で廃業したのは

令和元年から47件。事業

承継できたのは21件。経

済衰退と、社会インフラ

の減少を食い止めるため、

廃業に至らずに済む対策

として、後継者や事業承

継者になることを要件に

「地域おこし協力隊」を

公募するのはどうか。

産業振興課長：一つの方

策として関係者の意見を

聞いて検討していきたい。

質問：光ファイバー敷設

計画時に、ICTの利活

用として「買い物代行

サービス」の提案があつ

た、現在は検討されてい

るか。

デジタル推進課長：計画

時に提案された代行サー

ビスは行われていない。

今後はICTの利活用と

して、ドローンを使った

町独自の物流の仕組みづ

くりを行い、その中で買

い物支援や交通支援等に

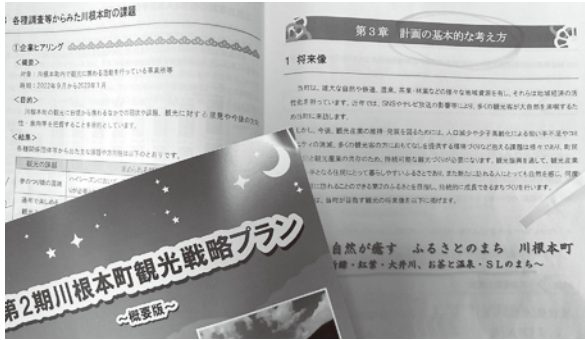
ついて検討していく。



いしやま きみお
石山 貴美夫
議員



大鐵不通の影響から町が寂れ、過疎化に不安が…



今後5カ年この観光戦略が基本となる

質問 大鐵全線復旧署名、県知事提出の手応えは

答え 地元の声を真摯に受け止めて頂いたと感じた

質問：大鐵は約百年にわたり町民の喜怒哀楽のシーンに関わり、流域、町の経済、イメージ向上等大きな貢献があった。

質問：それに応じて10月2日県議会質問に県当局は『大鐵の役割を認め、地元の声を真摯に受け止めて、観光資源としての重要性を考慮し年度内に執り得る方策をまとめ関係者間で実現に向けた協議を進める』と答えたが、これ

についてどのような所感を持たれたか伺う。

7割を超す町民、隣町2千5百、全3万5千を超える署名の県知事提出同行の手応え、所感を伺う。

質問：県あり方検討会委員の秋元副町長はどうか。

副町長：皆様の声を踏まえ全線復旧が必要との考えで取り組んでいく。

町長：地元住民の意思が明確に伝わり、地元の声

質問：主要産業の観光事業で観光戦略5カ年計画を策定公表した。この計画の最重要課題は何か。

質問 策定の町観光戦略プランの最重要点は何か

答え イメージの確立とアップ・イベント開催である

町長：訴求すべき観光イメージ確立、観光宿泊拠点イメージアップ、イベントの開催の3点である。

観光交流課長：入り込みは昨年来前年の4割程。関連事業者は大変厳しい状況だと把握している。

観光協会、地域おこし協力隊は駅周辺を使う企画に取り組んでいる。

質問：最近の観光客入り込み状況、関連事業者の動向をどう見るか。

観光交流課長：意見集約を図り必要優先順に事業化して行きたい。

町長：リードをとっていききたい。(質問他に27問)

質問：大鐵運休状況の中、

観光交流課長：意見集約を図り必要優先順に事業化して行きたい。

町長：リードをとっていききたい。(質問他に27問)

議員定数等検討委員会
検討結果報告

令和3年の議員選挙が無投票となった事から、町内外より様々な問題提起がされ同年12月議員発議により設置された本委員会は、先の10月10日第11回委員会、委員会としての最終結論を決定しました。これまでご報告してまいりました通り、同規模他町の実態調査や区長会・議会報告会での中間報告、ご意見の聞き取り等慎重に検討してまいりましたが、結論として人口規模・財政状況・議会機能等勘案し議員定数を、委員会として10名と決定、議長に報告致しました。今後、最終結論は議会上程され条例で決定される事になります。関連する様々な課題も縷々論議しましたが、結論を出すには至りませんでした。以上ご報告いたします。

委員長 石山貴美夫

第1常任委員会報告

行政の定住移住政策事業について、補足や強化ができないか、土地・住居・移住者支援・環境などさまざまな角度から検討。2月から5回開催。

町内の地価は都市部と比べて安価である。近隣都市部へのアクセスも悪くない。ベッドタウンとしての魅力があると思う。住み続けたいと思う環境や生活基盤が出来た際、家が建てられるように、空き地バンクに登録できるシステムを考えたい。

委員長 澤西省司

第2常任委員会報告

所管の教育・観光・商業・農林業の中で議案審査とは別に、研究・協議し政策提案の資としていくための活動を実施しました。大井川鐵道と観光、有機栽培関連、川根高校の現状と将来展望等について検討した中から、町の農業政策の現状と課題について協議する事とし、茶等有機栽培と、製茶工場延命化事業の進捗状況、荒廃農地関連等について産業振興課と協議を実施しました。

委員長 石山貴美夫



町有地の分譲等はどうか

12月定例会の日程

1日	金	定例会本会議(9時～ 議場) 全員協議会(本会議終了後 大会議室)
8日	金	定例会本会議(9時～ 議場) 全員協議会(本会議終了後 大会議室)
19日	火	定例会本会議(9時～ 議場)

○議場・大会議室は、役場本庁3階です。○となたでも傍聴できます。
○日程は変更することもありますので、詳しくは、議事事務局(56-2229)までお問い合わせください。
○新型コロナウイルス感染予防、拡大防止にご協力をお願いいたします。

議会の動き(抜粋)

- 7月
 - 1日 南アルプス寸又峡山開き安全祈願祭
 - 3・5・14・25日 広報委員会
 - 8・9日 議会報告会
 - 10日 大井川の清流を守る研究協議会総会
 - 11日 協議・全協
 - 13日 8月2日 学校施設利用検討委員会
 - 19日 9月22日 町農業農村振興対策委員会
 - 27日 志太様原五市二町議会議長連絡協議会
 - 31日 【視察受入】福島県北塩原村議会
- 8月
 - 9日 し尿処理施設運営委員会
 - 17日 市町議会議員研修会
 - 25日 町村議会広報クリニック
 - 31日 社会教育施設運営委員会
 - 9月
 - 1日 定例会・協議・全協
 - 4・5・7・8・19日 決算特別委員会
 - 11日 現地調査・採決
 - 19日 大鐵全線復旧を支援する会の署名提出の同行
 - 13日 県町村議会議長会総会
 - 15日 定例会・協議・全協・広報委員会
 - 27日 定例会・全協

2年間ありがとうございました

現メンバー最後の発行です。町と議会状況を一生懸命お知らせしたいと喧々諤々激論し発行してきました。不足だらけでしたが、ご厚情によりご購読頂いた事に、心から感謝と御礼申し上げます。2年間有り難うございました。

- 委員長 中原 緑
副委員長 石山貴美夫
委員 大竹 勝子
委員 藤田 至
委員 佐々木直也



訂正とお詫び：71号3ページ上段、「一般会計2億2600万円増額し74億4千万円」は、「2億2630万円増額し74億円」の誤りです。訂正してお詫び申し上げます。